

1) 活動の背景

東広島市の中心市街地である本町地区は、旧西国街道の宿駅として栄えた四日市の中心部に当たる。古くは江戸時代からの酒造施設が集積しており、酒蔵が連なる歴史の薫る町並みが創り出されている。また、旧山陽道を中心に赤瓦屋根の建物、歴史的デザインの大正期洋風建物、酒造りに関わりの深い井戸など多くの歴史・文化遺産が残っている地域である。

東広島市においては、中心市街地の商業機能低下が進みつつあり、西条四日市としての宿場町の文化・伝統が失われるだけでなく、本市の「街の顔」である中心市街地が、街としての活気も失われようとしている。

そのような状況の中、市は平成11年3月『東広島市中心市街地活性化基本計画』を定め、活性化を先導する重点的整備を行なう地区として、酒蔵地区(約20ha)他2地域を位置づけ、また、本計画で示された基本的な方向を受け、東広島商工会議所が『東広島商業タウンマネジメント計画』(TMO構想)を策定し、その後、市において認定された。

「構想」では、中心市街地を『酒蔵ゾーン』を含めた3つのゾーンに分け、それぞれ活性化の基本的方向を定め、取り組むべきプロジェクトメニューを示している。

この酒蔵地区整備の具体化に向けての検討として、平成14年9月に「酒蔵地区まちづくり協議会」が設立され、地域の住民・商業者・各種団体の方々が中心となって自分たちが望むまちづくりについて話し合い、行政と連携して具体的な計画づくりを行なっている。

酒蔵地区をフィールドとした様々な活動

(昭和30年代)	(本通り商店街として、近郷近在からの購買客を集め、たいへん賑わう)
昭和49年	明治大学工学部建築学科神代研究室による町並み調査 「SD 別冊NO.7 日本のコミュニティ(その1コミュニティとその結合)」 1975, 鹿島出版会
(昭和50年代)	(この頃より商店街の衰退が著しくなる)
昭和63年	西条てくてくマップ作成(東広島JC)
平成元年	現行の「酒まつり」が始まる
平成3年	(財)観光資源保護財団《日本ナショナルトラスト》による調査 「東広島市の町並み 西条四日市と白市」1991、(財)観光資源保護財団
平成9年	(社)東広島市観光協会による「酒蔵通り活性化事業」始まる 駅前「酒蔵通り活性化連絡所」の設置 / 散策ルート案内看板の設置
平成10年	広島大学建築学科学生による「魅力ある酒蔵地区の環境デザイン調査」
平成10年11月	東広島ボランティアガイドの会による「酒蔵のまちてくてくガイド」始まる
平成11年9月	日本建築学会(中国)関連行事公開シンポジウムの開催 テーマ:「やわらかいまちづくりの作法 東広島市を舞台に考える」 講師:片寄俊秀(関西学院大学教授)、木原勝彬(NPO政策研究所) http://www.sakaguradori.com/data/sym99/sym99_top.htm
平成11年11月	東広島商工会議所観光文化委員会(今谷委員長)視察研修 鳥取県倉吉市打吹地区「赤瓦」・岡山県倉敷市古民家再生工房 http://www.sakaguradori.com/data/insp99/insp99_6.htm http://www.sakaguradori.com/data/insp99/insp99_1.htm

平成11年12月	東広島JC 酒蔵地区視察研修
平成11年末	旧労働金庫跡建物の具体的な活用計画に着手(有志)
平成12年2月	古民家再生工房(有)檜村徹設計室による旧労働金庫跡建物実測調査
平成12年4月	倉吉「赤瓦」里見泰男氏を招いての講演会(東広島JC)
平成12年秋	「酒蔵通りふぁんくらぶ」設立発起人会開催 ホームページ「安芸西条/酒蔵通りドットコム」オープン
平成12年10月	酒まつり2000の開催に合わせ、旧労働金庫跡を利用してイベントを実施(有志)
平成12年11月	第15回国民文化祭の開催に合わせ、旧労働金庫跡を利用してイベントを実施(有志)
平成13年3月	旧労働金庫跡を利用し、まちづくり・暮らし織り人(光野加代子代表)による「西条四日市」の月例イベントが始まる
平成13年8月	「まちづくりフェスタ2001」(事務局:東広島JC)酒蔵地区を舞台に開催
平成13年10月	酒まつり2001の開催に合わせ、旧労働金庫跡を利用してイベントを実施(有志)
平成13年12月	広島大学教養的教育科目講座生による「酒蔵地区の魅力提案」
平成14年1月	「東広島まちづくりセンター」(事務局:東広島JC)が旧労働金庫跡を拠点としてオープン
平成14年3月	「旧労働金庫跡(吟古館)集客施設整備事業」を商業タウンマネジメント構想事業として実施申請書提出(有志)
平成14年7月	「西条酒蔵ライトアップ大作戦」(酒蔵通りふぁんくらぶ)~10月まで
平成14年9月	有限会社吟古館 設立 (「旧労働金庫跡(吟古館)集客施設整備事業」の事業実施主体として)
平成14年9月	酒蔵地区まちづくり協議会 設立
平成14年10月	酒まつり2002の開催に合わせ、旧労働金庫跡を利用してイベントを実施(有志)
平成14年10月	「酒蔵ライトアップ」写真展を「ギャラリー白壁」で開催(酒蔵通りふぁんくらぶ)
平成14年12月	「東広島まちづくりセンター」(事務局:東広島JC)が、ショージ士与丸店跡(空店舗)へ移動
平成15年2月	「酒蔵ライトアップ」写真展を広島総合銀行西条支店ロビーで開催(酒蔵通りふぁんくらぶ)

2) 活動の経緯と目的

昨年9月に発足した酒蔵地区まちづくり協議会では、地域におけるハード・ソフト面の施策を、地域住民や事業者らと協議を重ねながら決定していこうという試みが行われている。

最近そこで行われた議論の中で、「観光開発」「住環境の整備」「商店街としての整備」が三つの柱として立ち上がった。

しかし「観光開発」は、やり方によっては他の二つと相剋することが考えられる。これから地域の将来ビジョンを明確化していく上で、観光開発に重点をおく考え方と、住環境を守ろうとする考え方それぞれのメリット・デメリットをきちんと整理しつつ討論を行うことが重要になってくる。

まず大前提として「中心市街地の活性化」という大きな目的がある。その場合、「地域の生活に根ざした商店街」という理念だけでは事業の成功が覚束ないことは衆目の一致するところであ

ろう。どうしても、この地区に存する酒蔵群の文化的な価値を目玉とした観光開発を行い、それをテコとして地域の活性化を目指すというシナリオを選択せざるを得ない。

そうすると問題は「どのような観光化を行うのか」ということになる。

私たちはそこで、「観光」の捉え方が、従来型の「物見遊山」ではなく「交流・体験」に重点がおかれるようになってきたことに注目し、そういった観光事業を実施している事例を視察し、酒蔵地区に紹介したいと考えた。同時に住民・酒造会社や観光客の意識も調べ、今後「酒蔵地区にふさわしい観光開発のありかた」そして「町並み保存と市街地活性化のあり方」を検討していく上での参考材料にさせていただくことを目的として、この活動を計画、実施した。

3) 活動の内容

以前に実施された関連調査データのとりまとめ

先述したように、この地区では従来より様々なフィールドワークが行われており、これらを取りまとめて整理するだけでも貴重な資料となりうる。詳細は別添の「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり調査報告書」(資料1)に掲載したのでご参照願いたい。

関連アンケート調査

時 期	テ ー マ	対 象	実施団体
1998年	「酒蔵通りの魅力づくりに関する資源調査」	地区内住民、酒造会社	広島大学工学部
2001年12月	「酒蔵めぐり後の討議のまとめ」	学生	広島大学総合科学部
2002年 1月	「本通り周辺の住民・事業者へのアンケート」	周辺住民、事業者	東広島TMO
2002年10月	「酒まつり来場者へのアンケート」	観光客(酒まつり)	酒まつり実行委員会
2002年10月	「酒まつり来場者へのアンケート」	観光客(酒まつり)	東広島市

酒蔵地区を訪れる観光客への聞き取り調査およびアンケート調査の実施

酒まつり来場者以外の観光客の意識調査資料がなかったので、私たちの手で街頭アンケートを実施した。特にイベントやツアー企画以外で、土曜日あるいは日曜日にふらりと訪れる観光客の数が、一日当たり平均して20名だったこと、東広島を初めての人が35%だったのに対し酒蔵通りを初めての人が59%だったこと、5回以上訪れている方もいらっしゃるなど、興味深い事実もわかった。

詳細は別添の「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり調査報告書」(資料1)に掲載したのでご参照いただきたい。

先進事例地の視察調査の実施

従来型の観光ではないユニークな取り組みを行っている地域を実際に訪れ、視察を行った。詳細は別添の『『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり調査報告書』(資料1)に掲載したのでご参照いただきたい。

- 1 宮崎県綾町

宮崎県綾町は、物見遊山的な観光産業を奨励するのではなく、逆に、交流・観光を通じて町に根ざした産業を振興させていこうという、グリーンツーリズムにも通ずる基本的な考え方をもって脚光を浴びている町である。特に今回訪れた「酒泉の杜」は、酒を主題としたテーマパークであり、酒蔵地区における観光施設の整備の参考になるのではないかと考えられた。



しかし、現実の「酒泉の杜」は、どちらかというところツアー客目当ての施設整備を充実させることに努め、収益を優先しているような印象を受けた。建物のデザインもバラバラで一貫性がない。ただ、ワイナリーが建設された1994年以降観光客の入り込み数が倍増しているのもまた事実である。宮崎シーガイアからの観光客誘致など、巧みなPRが功を奏しているのかも知れない。

- 2 長野県小布施町

小布施町もまた年間百万人以上の入り込み数がありながら、観光を主要な産業としては捉えていない。今回視察の対象としたのは小布施堂周辺の町並み修景事業であるが、ここにも榊一市村酒造場という酒蔵があり、また一般住宅も含めた民間の事業であることなど、参考にすべき点が多いと考えた。

実際に行ってみると、修景事業が行われた区域だけではなく、北斎館の駐車場付近を含めた周辺にも、町並みに配慮した建物が広がっていることがわかった。町は『潤いのある環境デザイン協力規準』を定めてはいるが、あまり厳しい制限ではない。それにもかかわらずこのような町並み景観を維持しているのは、古来より文化を重んじてきた地域性によるものではないかと思われた。



さらに、町並み修景事業の区域内の建物は、どれも質が高いものであった。駐車場付近にある外壁が剥がれたような蔵の建物も夜になるとライトアップされ、雰囲気作りにひと役買っていたのが印象的であった。

修景事業地にある、古い酒蔵の建物を使った和風レストラン『蔵部』の椅子には、週日であるにもかかわらず多くの人々が座っていた。しかもそれらは観光客ではなく、近辺の客であるらしかった。

観光地にありながら観光客に媚びない店づくりにたいへん好感が持てた。

小布施で特筆すべきなのは、観光によって地域のイメージがアップし、それによって特産品の栗菓子が売れ、栗を出荷する農家も潤うという好循環が現実のものとなっているということである。観光が地場産業を育てているのである。これこそ将来私たちの酒蔵地区が目指さなければならぬ姿ではないだろうかと思った。

- 3 ア・ラ・小布施

以降は観光地としての視察ではなく、民間主体の事業の立ち上げ方の参考事例である。実は当初、ア・ラ・小布施についてはあまりよく知らなかったが、お伺いしてお話を聞くうちに、民間での修景事業を成功させたエネルギーの源が何なのかを感じることができた。

そのうちのひとつは、先述したように地域の文化程度が高いことである。二番目は、新生病院の存在である。このサナトリウムがあることで、地域に「奉仕」の精神が根付いたのであると思う。三番目は、町の推進する『オープンガーデン』の精神「丹精込めた庭を、より多くの人と一緒に楽しもう。出会いや交流をつうじて花と緑があふれる豊かな生活文化を高めよう」である。ここに、いわゆる「観光」とは違う「おもてなし」の精神がある。

- 4 「たしかなかたち」プロジェクト（長野市・(社)長野青年会議所）

東広島市も例外ではないと思うが、衰退した中心市街地の空き店舗対策は、どの自治体も頭を痛めているわりにはなかなか成果の現れない施策である。長野市と長野JCは、これをTMO事業として取り上げるとともに、非常にユニークな手法を用いて成功に導いた。

彼らは、培ったノウハウをとりまとめ蓄積し、出店希望者に対し事業計画の立て方などガイダンスを施し、さらには事業化も視野に入れている。

表面には表れていないが、中心市街地活性化における様々な取り組み手法を注意深く選択し、地に足のついた事業として実施に移した手腕は素晴らしいと思った。

改ページ

学識経験者を招いてのシンポジウムの開催

下記のとおり概要である。詳細は「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくりシンポジウム記録」(資料2)をご参照いただきたい。

日 時 : 平成15年3月15日 午後2時～午後5時

場 所 : 東広島市民文化センター 第二研修室

テ ー マ : 『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり

参加人員 : 約30名(酒蔵地区住民、行政、市民団体、他)

内 容 :

- 1 視察報告

「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり調査報告書」(資料1)に基づき、スライドを利用しての内容を報告。

- 2 講演

倉吉市から里見泰男氏(株)赤瓦取締役、建築家)を招き、テーマに沿った内容でご

講演をいただいた。

倉吉市の概要、「赤瓦」立ち上げのエピソード、現況（年間10万～15万人の入込み客）、夢街道「伊能忠敬の足跡をたどる協議会」のお話、「NPOさかずきネット」の話題、さらに今後やろうとしている古い家屋を使った福祉（介護）施設と商業施設のマッチングの話などに続いて、最後に話された次のような言葉がたいへん印象に残った。

「赤瓦を作ったとき『観光地にはしたくないなあ』ということ仲間と話しました。いわゆる、お土産屋さんがずらっとならぶのはいただけないな、と。『懐かしさを感じるまち』『本物に出会えるまち』というのがいいんじゃないかと。赤瓦に落書き帳ノートというのが置かれていて、そこに『生活感があっていいですね』というコメントがあるとほっとします」

- 3 ディスカッション

講師を交えて、会場からの意見や質問を受け付けながらディスカッションを行った。東広島市の島田助役が参加されており、最後にたいへん有意義なコメントをいただいたのは収穫であった。

～ の記録作成・配布およびホームページ等による成果の発表

- ・ 観光客へのアンケート調査および先進地視察調査報告書として
「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり 調査報告書」(資料1)
- ・ シンポジウムの記録および提言として
「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくりシンポジウム 記録」(資料2)
- ・ ホームページへの掲載
<http://www.sakaguradori.com/>

今回の活動は、正式には「東広島市西条酒蔵地区における中心市街地活性化を目的とした観光開発と町並み景観および居住環境の保全に関する調査研究ならびに提言」と題して各方面への告知を行った。

今回の活動で特徴的なのは、現在まさに進行中の「酒蔵地区まちづくり協議会」における議論への材料提供であることである。しかも、調査資料やシンポの記録が、誰でも手に入れることができる文書としてまとめられるのは、少なくともここ東広島ではあまりないことである。

これらの成果物が、住民の方々や酒造会社、行政職員に対し、「観光」に対する新しい考え方やまちづくりのノウハウを提供することで、まちづくり協議会での議論がよい方向へ進むことを期待したい。

4) 活動の成果

先述したように、まちづくりについてあまり知識やノウハウを持たない地域住民の方々に、様々な

事例もあることを知っていただけたことが最も大きい。特に「観光」という言葉が持つ古い固定観念に囚われない考え方を提供できたことである。

ただ、シンポジウム以後まだ「酒蔵地区まちづくり協議会」が開催されていないので、協議会での議論にどのように役だったか、その反響を確認するまでには至っていない。

アンケートおよび視察調査の報告書とシンポジウムの記録および提言書を酒造会社あるいは行政当局、後援団体（観光協会、青年会議所）に配布した。おおむね好意的に捉えていただき、今後における酒蔵地区のイメージづくりや施策に活かしていただけることを確認した。

視察に同行した30代の若いスタッフが、小布施における修景事業の素晴らしさを目の当たりにし、ア・ラ・小布施の関さん（取締役企画部長）と直接に語り合うなど、『本物』に触れたことも成果として挙げたい。将来のまちづくりにおいて、彼らが得たものが必ず役立つはずである。

5) 今後の展開

私たちが関わっている酒蔵地区のまちづくりは、まだやっと芽吹いたところである。これまで何度も種が蒔かれたがなかなか芽が出なかった。今回の芽吹き「酒蔵地区まちづくり協議会」も、行政の支えがあってやっと成長を維持している段階である。

本来地域内の住民や事業者が主体となるべきまちづくりにおいて、私たちのような市民団体が果たせる役割は実はあまり多くないと思う。権利関係が存在しないので生々しいことに首をつっこまないでよい反面、関わり方が希薄で理想論的になりがちである。所詮は「応援団」なのだろう。しかしできれば、声がかれるまで声援を送り続けたい。

今回の活動は、単なる声援ではなく、私たち自身がまちづくりについて勉強し、そこで得たものを主体である地域住民や酒造会社の方々、さらには行政職員の方々に提供するという形であった。それは、まちづくり協議会においてそういった方向の議論がまさに起こったからであり、いうなれば「主体」であるところのまちづくり協議会に対する側面支援事業であったと言えるかも知れない。

「酒蔵通りふぁんくらぶ」は、今後もこのような側面的支援を担う団体でありたいと考えている。また、行政が行うより民間が行うのが望ましく、住民が実施するには困難な事業などを積極的に展開して行きたい。さらに、地域外からの応援団の声を集めたい。

具体的には、来年度（4月）以降次のような計画を予定している。

4月～6月		
項目	内	容
視察研修	将来を見据えた整備を考えるため、他の地域における酒蔵周辺の街路整備状況や酒造り資料館を見学・視察する。（神戸市東灘区・京都市伏見区） 報告書を取りまとめ、酒蔵地区まちづくり協議会、酒造組合等諸団体と諸機関へ配布。概要はホームページ上にも掲載する。	
	【期待される効果】 他都市の事例を視察し、またその結果を広く報告することで、関係者がまちづくりに関する新しい情報を共通して持つことができる。また、それが刺激となって西条の酒蔵通りのまちづくりを見直したり、新しいアイデアが出るきっかけとなりうる。	

会報紙発行 (第1号)	<p>特集：灘・伏見視察研修の報告(概要版)</p> <p>コラム：「酒蔵通り」の成り立ちに関わるエピソード/日本酒に関する蘊蓄 「街道」「町並み保存」の情報提供</p> <p>イベントの案内/開いている酒蔵の案内/会員募集/その他</p>
	<p>【期待される効果】</p> <p>一般市民に対しては、これまであまり知られていなかった酒蔵通りの魅力を広くアピールし、地域に誇りを持っていただくことができる。また観光客に対しては、観光パンフレットとは違う形で、きめ細かな情報提供が可能となる。</p>

6月~8月	
項目	内容
酒蔵地区に残る町屋の見学会	<p>酒蔵地区に残る町屋の構造や建築的特徴などを見る勉強会を開催する。 なお、建築史に詳しい講師を招いて解説をしていただく。</p>
	<p>【期待される効果】</p> <p>建築を文化として捉え、この地域に歴史の積み重ねがあることを市民が再認識できる。</p>
会報紙発行 (第2号)	<p>特集1：「保存」と「活性化」...実例の紹介 登録文化財制度/重伝建地区/倉吉赤瓦/他</p> <p>特集2：東広島の町屋・農家住宅(居蔵づくり) 石井家住宅/木原家住宅/居蔵造りの構造的優秀さについて</p> <p>コラム：「酒蔵通り」の成り立ちに関わるエピソード/日本酒に関する蘊蓄 「街道」「町並み保存」の情報提供</p> <p>イベントの案内/開いている酒蔵の案内/会員募集/その他</p>
	<p>【期待される効果】</p> <p>1号に比べ、実際に酒蔵地区に住んでいる方に向けたアピールをすることで、古いけれど「本物」だけが持っている「価値」を認識していただける。</p>

8月~9月	
項目	内容
子どもを対象にしたワークショップの開催	<p>小学生を対象にする。</p> <p>最初に地域を散策し、面白いと思った物や人や風景の写真を撮影。お昼ご飯の間にそれを現像し、住宅地図を拡大した「ガリバー地図」に子どもたち自らが貼り付けていく。</p> <p>なお、ファシリテーターは、専門家を招く。開催日は、酒蔵内部へもなるべく自由に入れるようにする。また、ガリバーマップを広げる会場は、空き店舗か酒蔵を貸していただく。</p>
	<p>【期待される効果】</p> <p>子ども達が地域に親しみを覚える。 楽しい何かを発見することによって、「歩く」喜びを知ることができる。</p>

会報紙発行 (第3号)	<p>特集1：心なごむ町並み 古材バンクの会の紹介 / 古民家再生 / 思想的バックボーンの紹介</p> <p>特集2：子どもを対象としたワークショップの報告</p> <p>コラム：「酒蔵通り」の成り立ちに関わるエピソード / 日本酒に関する蘊蓄 「街道」「町並み保存」の情報提供</p> <p>イベントの報告・案内 / 開いている酒蔵の案内 / 会員募集 / その他</p>
	<p>【期待される効果】</p> <p>市民や観光客に、町並みを考えることが、環境保護運動、スローフード運動ともリンクすることを知っていただく。</p>

10月～(2004年)2月		
項目	内	容
バリアフリーの視点から見た町並み調査	<p>(1) 街なかコミュニティの発掘 高度成長期まで残っていたはずの地域で助け合う暮らし方の記憶を、かつて賑わっていた商店街の様子をマップに落とし込みながら聞き取り調査する。 まちづくり・暮らし織り人にご協力いただく 大学生など若い人に関わっていただき、懐かしがるだけのパターンに陥らないよう注意</p> <p>(2) 障害者や高齢者にとって暮らしやすいか(散策しやすいか)どうかをチェック。 東広島バリアフリー研究会のご協力を仰ぐ 大学生など若い人に関わっていただく</p> <p>(3) 以上をふまえ、酒蔵地区で快適に永く暮らすための住まい方の提案として、共同住宅等の設計提案を行う。 大学(建築学科)の学生にご協力いただく</p>	
	<p>【期待される効果】</p> <p>「寂れた商店街」から「住み続ける街」への再生の道筋がより明確になる。 多くの若者が関わることで、街に活気が生まれる。</p>	
会報紙発行 (第4号)	<p>特集：「バリアフリーから見た町並み調査」の報告</p> <p>コラム：「酒蔵通り」の成り立ちに関わるエピソード / 日本酒に関する蘊蓄 「街道」「町並み保存」の情報提供</p> <p>イベントの報告・案内 / 開いている酒蔵の案内 / 会員募集 / その他</p>	
	<p>【期待される効果】</p> <p>ドーナツ化現象への警鐘。新しい住人の誘致。</p>	

6) 活動のポイント

・ 活動の人材

私たち「酒蔵通りふぁんくらぶ」スタッフは、基本的に「所属」という概念ではなく、「ネットワーク」という概念で集まっている。従って、スタッフ数の把握は本当は困難である。今回主となって働いたのは、酒蔵地区に店舗を出すことでまちづくりに貢献したいという「(有)吟古館」のメンバーである。また、毎月4日に『西条四日市』と銘打った事業を共催で実施している女性グループ「まちづくり・暮らし織り人 結」にもシンポジウム当日お手伝いをいただいた。

さらに今回は外部スタッフとして広島大学の学生にも協力をお願いした。彼女たちは、やはり

私たちと交流のある「広島エコミュージアム研究会」のメンバーでもある。アンケート調査の実施に際して、観光客と直に接した感想を若者らしくまとめてくれた。

また、今回表には出なかったが、都市計画事務所に勤務する主要メンバーも、的確なアドバイスをくれるなど陰ながら活動を支えてくれた。

こうしてみると「酒蔵通りふぁんくらぶ」を中心とした人的ネットワークはかなり広い。

- ・ 活動のための資金調達

今回の活動の資金は、(財)ハウジングアンドコミュニティ財団の委託費で賄われた。

- ・ 活動のネットワーク・支援

(財)ハウジングアンドコミュニティ財団を知ることができたのは、行政を通じてである。

また、アンケート調査実施に際して、観光協会から駅前案内所を快く使わせていただいたことなど、形にならない支援を多く受けている。

その他、市役所商工観光課に長野市行政当局や長野JCTの交渉窓口をお願いし、酒蔵地区まちづくり協議会の事務局である東広島市都市計画課にもいろいろご協力を願った。

広報面では、(社)東広島青年会議所広報委員会の取材、東広島リビング新聞社の取材・掲載、読売新聞の取材と掲載(広島版)があった。